

## 『斑点米カメムシ類 平年並み～やや多め』

本年は県病害虫防除所から斑点米カメムシ類の発生数が「平年並み」と発表されておりますが、8月5日にJA 営農支援課でもA地区～H地区を各1点ずつすくい取り調査したところ、「平年並み～やや多め」の頭数が確認されました。当日は朝方の霧雨により湿った状況でありましたが、気温が上昇し草地の乾燥が進むにつれ捕獲頭数も増えていく傾向にありました。捕獲の内訳は「アカヒゲホソミドリカスミカメ」が全体の58%、「アカスジカスミカメ」が同42%と「アカヒゲホソミドリカスミカメ」がやや多い状況となっております。

今後、出穂～乳熟期を迎えるに当り警戒が必要となりますので、つぎにより対策及び防除に努めてください。さらに詳しい情報を知りたい方は営農支援課までお問い合わせください。

また、出穂前より曇天日が続いておりますが、白未熟粒やくサビ米は出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると発生が多くなるとされており、圃場の乾燥により助長されることから、この期間の天候を注視し高温日が続く場合は、間断灌水等による乾燥対策に努めてください。

### 斑点米カメムシ対策

- ① 圃場内にヒエ、ホタルイが残草している場合は早急に抜き取る。
- ② 出穂10日後頃に1回目の薬剤（スタークル、キラップ等）を散布。  
「たつこもち」「ちほみのり」散布適期：8月8日頃  
「あきたこまち」散布適期：8月12日頃  
「きぬのはだ」「ときめきもち」等晩生品種：8月16日頃が目安
- ③ 上記薬剤散布後、速やかに草刈り（薬効があるうちに圃場内へ追込む）。
- ④ 上記薬剤散布から2週間を目途に2回目の薬剤（スタークル、キラップ等）を散布。

### 〈 防除薬剤 〉

- ・スタークル…[粉剤DL] 3kg/10a、[液剤10] 1,000倍で60L/10a  
[液剤10] 8倍で800ml/10a(無人ヘリ)
- ・キラップ…[粉剤DL] 3kg/10a、[フロアブル] 2,000倍で60L/10a  
[フロアブル] 16倍で800ml/10a(無人ヘリ)

技術情報は、ホームページ「営農情報」<https://www.ja-ogata.or.jp/farming/>にも掲載しております。  
(組合員専用ページです。IDとパスワードを入力してください。)

ID: jaogt (半角小文字) パスワード: eino3033 (半角英数文字)